

枕崎市新地方公会計制度に基づく財務書類  
(平成24年度決算)

平成26年3月  
枕崎市財政課

## はじめに

新たな地方公会計の整備については、平成18年6月に成立した「行政改革推進法」の中で、地方公共団体の資産・債務改革を推進する上で、企業会計の慣行を参考とした財務書類の整備に努めることとされました。

これを受けて、総務省は、平成18年に「新地方公会計制度研究会」及び「新地方公会計制度実務研究会」を発足させ、「新地方公会計制度実務研究会報告書」（以下、「実務研究会報告書」）をまとめました。「実務研究会報告書」では、「基準モデル」と「総務省方式改訂モデル」（以下、「改訂モデル」）という2つのモデルが提示され、取組が進んでいる団体、都道府県、人口3万人以上の都市は、平成21年度中に、取組が進んでいない団体、町村、人口3万人未満の都市については、平成23年度中に、いずれかのモデルで作成の上、公表することが求められたところですが、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく健全化判断比率が平成20年度から公表されることから、全ての地方公共団体に対して早期に財務書類の整備・公表を行うよう要請がなされているところです。

「基準モデル」と「改訂モデル」については、その目的とするところは同じですが、「基準モデル」は、資産状況を一括して整備し、個々の取引情報を発生主義により複式記帳して処理する方法をとります。それに対して「改訂モデル」は、資産については段階的な整備を、取引情報も既存の決算統計データをもとに作成することが認められており、作成に係る負担を考慮したモデルであるといえます。

本市は、「改訂モデル」によって、「実務研究会報告書」に記載された要領に従い、平成24年度決算に基づく「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」のいわゆる財務4表を作成しました。

財務4表は、一般会計が対象となる普通会計財務書類と普通会計に各公営企業会計、公営事業会計及び一部事務組合、広域連合、市が出資する土地開発公社や第三セクターを加えた連結財務書類を作成しました。

## 平成24年度決算に基づく連結財務書類の概要

### (1) 貸借対照表

平成25年3月31日現在における資産総額は456億5,612万2千円で、市民一人当たりには換算すると194万3千円となり、前年度(203万1千円)に比べ、8万8千円減少しています。有形固定資産の行政目的別割合を見てみると、道路整備や下水道事業などの「生活インフラ・国土保全」分野の占める割合が57.9%と最も大きく、「教育」、「環境衛生」、「産業振興」分野と続いています。

一方、負債総額は235億7,214万9千円で、市民一人当たりには換算すると100万3千円となり、前年度(104万4千円)に比べ4万1千円減少しています。

資産総額から負債総額を差し引いた純資産総額は、220億8,397万3千円で、市民一人当たりには換算すると94万円となり前年度(98万7千円)に比べ4万7千円減少しています。

### (2) 行政コスト計算書

平成24年度1年間の経常行政コスト総額は、212億843万9千円で、市民一人当たりには換算すると90万3千円となり、前年度(100万1千円)に比べ9万8千円減少しています。行政コストを性質別に見てみると、社会保障給付などの「移転支出的なコスト」の占める割合が59.1%と最も大きく、物件費や減価償却費などの「物にかかるコスト」、人件費などの「人にかかるコスト」と続いています。また、目的別に見てみると、「福祉」分野の占める割合が55.3%と最も大きく、「産業振興」、「環境衛生」、「生活インフラ・国土保全」分野と続いています。

### (3) 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の「純資産の部」が1年間の行政活動によってどのように変動したかを計算する財務書類で、結果は220億8,397万3千円と、貸借対照表の「純資産合計」と一致しています。

### (4) 資金収支計算書

資金収支計算書は、1年間の収入と支出を、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」、「投資・財務的収支の部」の3つの活動区分に分類して、支出と財源の関係など資金の流れを見るための財務書類で、期末の資金残高は28億6,168万9千円と、貸借対照表の「資産の部」流動資産の「資金」と一致しています。

平成24年度決算に基づく連結財務書類の概要については上記のとおりですが、今後も継続的に財務書類を作成することによって、新地方公会計制度の主要な目的である市民に対する説明責任と資産・債務改革に対応するとともに、本市の資産形成における構造的な特徴や傾向及びコストや負債の状況を視野に入れた資産形成の判断材料として活用を図っていきます。

## 目 次

### 1. 財務書類の読み方

- (1) 貸借対照表とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 行政コスト計算書とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) 純資産変動計算書とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (4) 資金収支計算書とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

### 2. 普通会計

- (1) 作成に関する基本事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (2) 普通会計貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (3) 普通会計行政コスト計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 普通会計純資産変動計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (5) 普通会計資金収支計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

### 3. 連結

- (1) 作成に関する基本事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (2) 連結貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (3) 連結行政コスト計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (4) 連結純資産変動計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (5) 連結資金収支計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

### 4. 財務書類を活用した財政分析

- (1) 資産形成度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (2) 世代間公平性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (3) 持続可能性（健全性）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- (4) 効率性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- (5) 弾力性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (6) 自律性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

## 1. 財務書類の読み方

新地方公会計制度における財務書類は、「貸借対照表」（バランスシート）、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の4つの表で構成されており、地方公共団体の財務書類は、財務4表と呼ばれる場合もあります。

ここでは、普通会計財務4表の読み方について説明します。

### (1) 貸借対照表とは

地方公共団体における貸借対照表は、これまでの行政活動によって形成された道路、建物や土地などの資産残高と、その資産を形成するために要した財源（負債や純資産）の残高を表したものです。表の左側の借方には取得した資産が、右側の貸方にはその資産を取得するために要した負債や、資産と負債の差額である純資産が示されており、借方合計と貸方合計は一致するようできています。（資産＝負債＋純資産）

借 方	貸 方
1. 公共資産	1. 固定負債
2. 投資等	2. 流動負債
3. 流動資産	負債合計
資産合計	純資産合計

本市が現在保有する資産の総額

資産形成のため、将来支払う額など

資産形成のため、すでに支払った額など

#### ① 資産の部

資産の部は、「公共資産」、「投資等」、「流動資産」から構成されています。

「公共資産」は、土地、建物、構築物、機械装置、備品など、自治体が公共サービスを提供するために長期間にわたって使用する資産などをさします。「投資等」には、投資及び出資金や貸付金、特定の目的のために積み立てている基金、また、1年以上回収できていない債権などを計上します。「流動資産」は、現金預金や財政調整基金、減債基金、1年以内に回収できなかった未収金などをさしています。

#### ② 負債の部

負債とは、将来に返済や支払いの義務があるものをいいます。負債の部には、「地方債」の他に、債務負担行為などの「未払金」、「退職手当引当金」、「賞与引当金」などが計上されます。

負債のうち、1年以上先に返済や支払いの義務が発生するものを「固定負債」、1年以内に発生するものを「流動負債」として計上します。

#### ③ 純資産の部

純資産は、資産と負債の差額で、資産形成に充てられた財源のうち、既に支払いが済んだ部分という意味合いを持っています。純資産の部は、「公共資産等整備国庫補助金等」、「公共資産等整備一般財源等」、「その他一般財源等」、「資産評価差額」で構成されています。

「公共資産等整備国庫補助金等」とは、公共資産を取得するために使われた国庫支出金及び県支出金の合計額です。「公共資産等整備一般財源等」とは、公共資産を取得するために使われた一般財源等の合計額です。一般財源等とは、地方税や地方交付税などが該当します。「その他一般財源等」とは、公共資産以外の資産を取得する目的で使われた一般財源等です。「資産評価差額」には、資産を取得した時の価額と売却時の価額の差を計上します。

## (2) 行政コスト計算書とは

行政コストとは、行政サービスのうち、人的サービスや給付サービスなどの、資産の形成にはつながらない費用のことをいいます。貸借対照表が資産の増減に着目していたのに対して、行政コスト計算書は、その会計期間における資産の増減を伴わない費用と収益を計算します。行政コスト計算書は、どのような分野（行政目的別）にどのようなコスト（性質別）がかかっているかが分かるよう格子状（マトリックス表示）に表示されています。

経常行政コスト	行政目的別コスト			
1 人にかかるコスト				
2 物にかかるコスト				
3 移転支出的なコスト				
4 その他のコスト				
経常収益				
使用料・手数料				
分担金・負担金・寄附金				
その他の収益				
純経常行政コスト	$\text{経常行政コスト} - \text{経常収益} = \text{純経常行政コスト}$			

行政サービスを提供するためのコスト

行政サービス直接対価としての収入

行政分野別のコストが分かる

行政活動の目的は公共の福祉の増進を図るもので、必ずしも利益を出すことを目的として活動しておりません。行政コスト計算書は、企業会計における「損益計算書」に該当するものですが、「損益計算書」とは異なる見方が必要となります。総務省が提示するモデルでは、税収や地方交付税などは、収益とはみなさず「純資産変動計算書」に計上されます。したがって、行政コスト計算書の「経常収益」には、使用料・手数料や分担金・負担金等の行政サービスに係る直接の対価（受益者負担分）のみが計上され、ほとんどの地方自治体においては、収益をコストが上回る結果となります。（経常行政コスト－経常収益＝純経常行政コスト）

### ① 経常行政コスト

経常行政コストは、性質別に、「人にかかるコスト」、「物にかかるコスト」、「移転支出的なコスト」、「その他のコスト」に分類されます。

「人にかかるコスト」とは、行政サービスに係わる人にかかるコストのことで、「人件費」や「退職手当引当金繰入等」、「賞与引当金繰入等」が該当します。引当金繰入とは、職員が1年働いたことによる退職金や賞与の増減分のことです。

「物にかかるコスト」とは、行政サービスを提供する上で必要になる消耗品や、建物の補修など物にかかるコストのことで、「物件費」、「維持補修費」、「減価償却費」などが該当します。

「移転支出的なコスト」とは、社会保障給付や、他団体などへ支出した分をコストとして計上します。「社会保障給付」、「補助金等」、「他会計等への支出額」、「他団体への公共資産整備補助金等」が該当します。

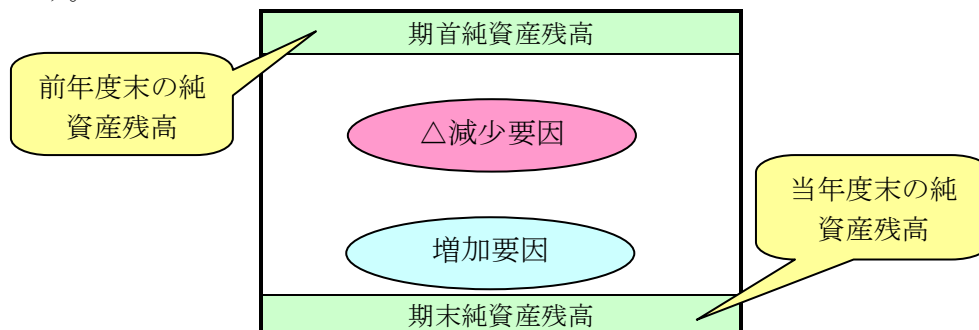
「その他のコスト」は、上記3つ以外のコストをまとめて計上します。「支払利息」、「回収不能見込計上額」、「その他行政コスト」が該当します。「回収不能見込計上額」は、収入予定だった地方税等が、滞納などにより回収できないであろうと見込んだ額です。過去の不納欠損額をもとに算出します。

### ② 経常収益

経常収益は、提供した行政サービスに対する直接の対価のことで、「使用料・手数料」、「分担金・負担金・寄附金」が該当します。

### (3) 純資産変動計算書とは

純資産変動計算書とは、貸借対照表の純資産の部が1年間でどのように変動したのかを計算する財務書類です。その計算は、前年度貸借対照表の純資産に対して、どれだけの収入があり、どれだけ収入を減らす要因があったかを差し引きして行います。結果は当年度貸借対照表の純資産と一致します。



#### ① 純資産変動計算書の構成

純資産変動計算書は、「期首純資産残高」、「純経常行政コスト」、「一般財源」、「補助金等受入」、「臨時損益」などで構成されています。

「期首純資産残高」とは、前年度の貸借対照表における純資産の部の各項目が計上され、純資産変動計算書のスタート地点となります。

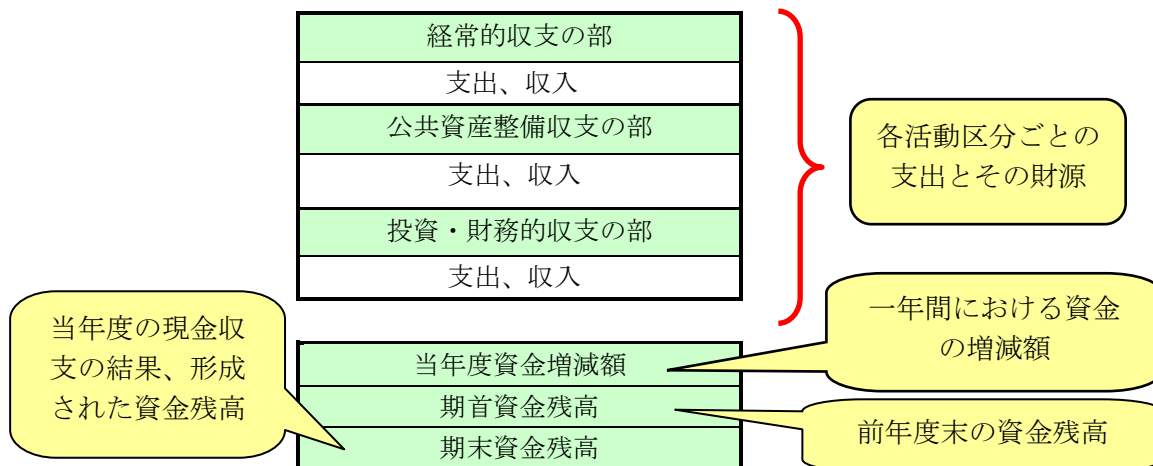
「純経常行政コスト」には、行政コスト計算書で計算した純経常行政コストの額が資産の減少要因として入ります。提供された行政サービスに対して受益者の負担で賄った分以外、つまり一般財源等で賄わなければならない分を意味しています。「一般財源」には収入として計上されるものを「地方税」、「地方交付税」、「その他行政コスト充当財源」の3つに分類して計上します。

「補助金等受入」には、道路整備や建物の建設などに充てた国県補助金が計上されます。

「臨時損益」には、その名の通り臨時に発生した損益を計上します。具体的には、災害復旧事業費、公共資産の除売却による損益などが該当します。

#### (4) 資金収支計算書とは

資金収支計算書とは、1年間の収入と支出を、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」、「投資・財務的収支の部」の3つの活動区分に分類して、支出と財源の関係など資金の流れを見るための財務書類です。期末の資金残高は、貸借対照表の中の「歳計現金」（連結貸借対照表においては「資金」）と一致します。



##### ① 資金収支計算書の構成

資金収支計算書は、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」、「投資・財務的収支の部」に分類されます。それぞれの支出と、それに対応する収入を差し引きして当年度の資金の増減額と期末の資金残高を計算します。

「経常的収支の部」には、人件費や物件費、社会保障給付など資産形成以外の目的で毎年経常的に支出されるものと、地方税や地方交付税などの一般財源が計上されます。

「公共資産整備収支の部」には、道路や公園などの公共資産整備を目的とした支出と、その財源が計上されます。

「投資・財務的収支の部」には、投資及び出資金、貸付金などの支出と、その財源が計上されます。



## 2. 普通会計

### (1) 作成に関する基本事項

#### ① 普通会計を対象

普通会計とは、「地方財政状況調査（決算統計）」作成上の概念的な会計で、一般会計にいくつかの特別会計を加えたものです。本市の場合、一般会計のみが該当します。

#### ② 作成に用いる基礎データ

改訂モデルでは、決算統計のデータを基礎数値として使用します。決算統計データは、全ての地方公共団体を通じて統一的なデータの把握ができること、電算処理化された昭和44年度に遡ってデータ操作が比較的容易であることなどのメリットがあります。また、決算統計以外にも、歳入歳出決算書、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく健全化判断比率の算定資料等も使用しています。

#### ③ 取得原価主義

有形固定資産は、取得原価主義に基づいて計上しています。昭和44年度以降の決算統計における普通建設事業費（他団体等に負担金・補助金等として支出した金額を除く）を集計し、減価償却計算を行った金額を計上しています。

#### ④ 作成基準日

作成基準日は各年度の3月31日とします。ただし、出納整理期間（4月1日～5月31日）における出納については、基準日までに終了したものとして算入します。

#### ⑤ 一年基準の採用

一年基準とは、貸借対照表の表示上、流動・固定を分類するにあたり、貸借対照表の基準日の翌日から一年以内に入金または支払の期限が到来するものを流動資産または流動負債とし、それ以外のものを固定資産または固定負債とする分類基準です。

## (2) 普通会計貸借対照表

貸借対照表  
(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
<b>[資産の部]</b>		<b>[負債の部]</b>	
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産		(1) 地方債	9,661,795
①生活インフラ・国土保全	15,809,251	(2) 長期未払金	
②教育	5,226,582	①物件の購入等	210,431
③福祉	382,117	②債務保証又は損失補償	0
④環境衛生	123,693	③その他	974
⑤産業振興	2,499,732	長期未払金計	211,405
⑥消防	723,413	(3) 退職手当引当金	2,501,286
⑦総務	1,435,235	(4) 損失補償等引当金	119,036
有形固定資産合計	26,200,023	固定負債合計	12,493,522
(2) 売却可能資産	715,714		
公共資産合計	26,915,737	2 流動負債	
2 投資等		(1) 翌年度償還予定地方債	1,332,447
(1) 投資及び出資金		(2) 短期借入金（翌年度繰上充用金）	0
①投資及び出資金	758,624	(3) 未払金	36,447
②投資損失引当金	△ 102,810	(4) 翌年度支払予定退職手当	82,773
投資及び出資金計	655,814	(5) 賞与引当金	127,548
(2) 貸付金	671,653	流動負債合計	1,579,215
(3) 基金等		負債合計	14,072,737
①退職手当目的基金	0		
②その他特定目的基金	159,300	<b>[純資産の部]</b>	
③土地開発基金	308,000	1 公共資産等整備国庫補助金等	4,381,484
④その他定額運用基金	3,000	2 公共資産等整備一般財源等	18,143,620
⑤退職手当組合積立金	0	3 その他一般財源等	△ 6,785,031
基金等計	470,300	4 資産評価差額	327,600
(4) 長期延滞債権	176,947	純資産合計	16,067,673
(5) 回収不能見込額	△ 40,563		
投資等合計	1,934,151		
3 流動資産			
(1) 現金預金			
①財政調整基金	917,650		
②減債基金	60,350		
③歳計現金	278,408		
現金預金計	1,256,408		
(2) 未収金			
①地方税	43,462		
②その他	7,274		
③回収不能見込額	△ 16,622		
未収金計	34,114		
流動資産合計	1,290,522		
資 産 合 計	30,140,410	負債・純資産合計	30,140,410

## 貸借対照表欄外注記

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産	①生活インフラ・国土保全	666,527	千円
	②教育	114,469	千円
	③福祉	78,582	千円
	④環境衛生	322,297	千円
	⑤産業振興	3,543,083	千円
	⑥消防	896	千円
	⑦総務	63,998	千円
	計	4,789,852	千円
上の支出金に充当された財源	①国県補助金等	2,156,984	千円
	②地方債	871,813	千円
	③一般財源等	1,761,055	千円
	計	4,789,852	千円
※2 債務負担行為に関する情報	①物件の購入等	0	千円
	②債務保証又は損失補償	1,519,344	千円
	(うち共同発行地方債に係るもの)		千円)
	③その他	1,272	千円
※3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む)のうち5,007,165千円については、償還時に地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれているものです。			
※4 普通会計の将来負担に関する情報			

項目	金額	[内訳]	
		負債計上 【(翌年度償還予定)地方債・(長期)未払金・引当金】	注記 【契約債務・偶発債務】
普通会計の将来負担額	19,109,059	千円	
[内訳] 普通会計地方債残高	10,994,242	千円	
債務負担行為支出予定額	43,233	千円	43,233
公営事業地方債負担見込額	3,874,979		3,874,979
一部事務組合等地方債負担見込額	0		0
退職手当負担見込額	3,763,794	千円	
第三セクター等債務負担見込額	432,811	千円	432,811
連結実質赤字額	0		0
一部事務組合等実質赤字負担額	0		0
基金等将来負担軽減資産	10,824,716		
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	1,338,465		
地方債償還額等充当歳入見込額	567,954		
地方債償還額等充当交付税見込額	8,918,297		
(差引)普通会計が将来負担すべき実質的な負債	8,284,343		

※5 有形固定資産のうち、土地は8,319,634千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は22,699,806千円です。

## \*作成に関する注記事項

### ・売却可能資産

普通財産のうち、現に公用もしくは公共用に供されていないものを選定し、固定資産税評価額をもとに算出しています。

### ・回収不能見込額

歳入歳出決算書より、過去5ヶ年度分の収入未済額及び不納欠損額から算出される不納欠損実績率をもとに算出しています。

### ・退職手当引当金

退職手当引当金は、健全化判断比率の算定様式における4⑤A～D表の様式に基づき、作成基準日において普通会計に所属する職員数に応じ集計して算出しています。

(3) 普通会計行政コスト計算書

行政コスト計算書  
自平成24年4月1日  
至平成25年3月31日

【経常行政コスト】													(単位：千円)	
	総額	(構成比率)	生活インフラ・国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	議会	支払利息	回収不能見込計上額	その他	
1	1,711,545	19.6%	87,883	294,251	154,512	88,750	203,514	13,061	761,498	108,076			0	
(1) 人件費	162,608	1.9%	5,135	33,334	20,369	12,358	26,577	0	60,192	4,643			0	
(2) 退職手当引当金繰入等	127,548	1.4%	2,865	21,923	12,165	6,987	15,384	1,028	58,687	8,509			0	
(3) 賞与引当金繰入額	2,001,701	22.9%	95,883	349,508	187,046	108,095	245,475	14,089	880,377	121,228			0	
小計	603,906	6.9%	29,534	190,919	34,558	107,694	56,529	18,789	162,116	3,767			0	
(1) 物件費	61,451	0.7%	38,791	12,487	381	84	3,143	712	5,853	0				
(2) 維持補修費	957,126	11.0%	444,509	152,952	38,857	4,377	194,176	81,971	40,284	0				
(3) 減価償却費	1,622,483	18.6%	512,834	356,358	73,796	112,155	253,848	101,472	208,253	3,767			0	
小計	2,156,409	24.7%	33,947	67,092	2,055,370									
(1) 社会保障給付	1,276,877	14.7%	134,200	24,185	119,433	427,783	78,297	407,086	85,127	766			0	
(2) 補助金等	1,369,025	15.7%	245,517	0	1,077,488	43,039	0	0	2,981	0			0	
(3) 他会計等への支出額	159,012	1.8%	10,722	0	4,392	19,984	115,324	0	8,590	0			0	
(4) 他団体への 公共資産整備補助金等	4,961,323	56.9%	390,439	58,132	3,256,683	557,898	193,621	407,086	96,698	766			0	
小計	181,842	2.1%									181,842			
(1) 支払利息	△ 558	0.0%									△ 558			
(2) 回収不能見込計上額	△ 39,180	-0.5%	0	0	0	0	0	0	0	0		△ 39,180		
(3) その他行政コスト	142,104	1.6%	0	0	0	0	0	0	0	0		△ 39,180		
小計	8,727,611		999,156	763,998	3,517,525	778,148	692,944	522,647	1,185,328	125,761	181,842	△ 558	△ 39,180	
経常行政コスト a			11.5%	8.8%	40.3%	8.9%	7.9%	6.0%	13.6%	1.4%	2.1%	0.0%	-0.5%	
(構成比率)														
【経常収益】													一般財源 振替額	
1 使用料・手数料 b	97,423		31,609	4,059	135	1,334	2,243	18	15,932	0	0		42,093	
2 分担金・負担金・寄附金 c	163,551		0	1,929	142,357	0	4,257	0	14,334	0	0		674	
経常収益合計 d	260,974		31,609	5,988	142,492	1,334	6,500	18	30,266	0	0		42,767	
(b+c) d/a	2.99%		3.2%	0.8%	4.1%	0.2%	0.9%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%		0.0%	
(差引) 純経常行政コスト a-d	8,466,637		967,547	758,010	3,375,033	776,814	686,444	522,629	1,155,062	125,761	181,842	△ 558	△ 39,180	△ 42,767

## (4) 普通会計純資産変動計算書

## 純資産変動計算書

自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	16,660,002	4,562,800	18,362,744	△ 6,721,611	456,069
純経常行政コスト	△ 8,466,637			△ 8,466,637	
一般財源					
地方税	2,139,460			2,139,460	
地方交付税	3,890,521			3,890,521	
その他行政コスト充当財源	153,818			153,818	
補助金等受入	1,833,517	59,858		1,773,659	
臨時損益					
災害復旧事業費	△ 26,301			△ 26,301	
公共資産除売却損益	0			0	
投資損失	△ 2,837			△ 2,837	
損失補償履行確定額	0			0	
損失補償等引当金繰入等	14,599			14,599	
科目振替					
公共資産整備への財源投入			△ 129,270	129,270	
公共資産処分による財源増		0	△ 373,511	373,511	0
貸付金・出資金等への財源投入			142,206	△ 142,206	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 163,618	163,618	
減価償却による財源増		△ 241,174	△ 715,952	957,126	
地方債償還に伴う財源振替			1,021,021	△ 1,021,021	
資産評価替えによる変動額	△ 128,469				△ 128,469
無償受贈資産受入	0				0
その他	0	0	0	0	
期末純資産残高	16,067,673	4,381,484	18,143,620	△ 6,785,031	327,600

(5) 普通会計資金収支計算書

資金収支計算書

自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	2,207,338
物件費	603,906
社会保障給付	2,156,409
補助金等	1,276,877
支払利息	181,842
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	1,305,323
その他支出	87,752
支出合計	7,819,447
地方税	2,114,496
地方交付税	3,890,521
国県補助金等	1,706,170
使用料・手数料	96,971
分担金・負担金・寄附金	147,810
諸収入	39,724
地方債発行額	794,000
基金取崩額	286,710
その他収入	441,738
収入合計	9,518,140
経常的収支額	1,698,693

2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	357,256
公共資産整備補助金等支出	159,012
他会計等への建設費充当財源繰出支出	17,665
支出合計	533,933
国県補助金等	126,974
地方債発行額	177,800
基金取崩額	430
その他収入	20,449
収入合計	325,653
公共資産整備収支額	△ 208,280

3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	900
貸付金	114,932
基金積立額	152,362
定額運用基金への繰出支出	100
他会計等への公債費充当財源繰出支出	46,037
地方債償還額	1,366,927
支出合計	1,681,258
国県補助金等	373
貸付金回収額	153,760
基金取崩額	0
地方債発行額	0
公共資産等売却収入	16,922
その他収入	9,753
収入合計	180,808
投資・財務的収支額	△ 1,500,450

翌年度繰上充用金増減額	
当年度歳計現金増減額	△ 10,037
期首歳計現金残高	288,445
期末歳計現金残高	278,408

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。
- ② 平成24年度における一時借入金の借入限度額は2,000,000千円です。
- ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は172千円です。

※2 基礎的財政収支(プライマリーバランス)に関する情報

収入総額		10,313,046
繰越金	△	288,445
地方債発行額	△	971,800
財政調整基金等取崩額	△	80,000
支出総額	△	10,034,638
地方債元利償還額		1,548,597
財政調整基金等積立額		143,750
基礎的財政収支		630,510

### 3. 連結

#### (1) 作成に関する基本事項

##### ① 会計範囲

下記会計を連結した会計、総務省の報告書でいうところの連結財務書類を作成しています。

区分	対象会計・団体
普通会計	一般会計
公営企業会計	水道事業会計（法適用） 病院事業会計（法適用） 公共下水道事業特別会計（法非適用）
公営事業会計	国民健康保険特別会計 後期高齢者医療特別会計 介護保険特別会計
一部事務組合	南薩地区消防組合 南薩地区衛生管理組合 南薩介護保険事務組合 鹿児島県市町村総合事務組合（非常勤職員公務災害補償等事業） 鹿児島県市町村総合事務組合（自治会館事業） 鹿児島県後期高齢者医療広域連合（一般会計） 鹿児島県後期高齢者医療広域連合（特別会計）
地方三公社	枕崎市土地開発公社
第三セクター	枕崎市かつお公社 枕崎市水産センター 南薩エアポート 枕崎お魚センター 南薩地域地場産業振興センター 南薩木材加工センター

##### ② 作成に用いる基礎データ

普通会計と同様に、決算統計のデータを基礎数値として使用しています。ただし、水道事業会計や病院事業会計といった法適用の公営企業会計及び地方三公社、第三セクターにおいては、個々の会計基準に基づいた法定の決算書を作成しているため、それらを組替えて作成しています。また、決算統計の他にも、各企業会計等の「歳入歳出決算書」や「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく健全化判断比率の算定資料等も使用しています。

##### ③ 作成基準日

普通会計に同じ。

##### ④ 一年基準の採用

普通会計に同じ。

##### ⑤ 相殺消去について

連結対象会計間での取引（会計間の繰出・繰入など）については、相殺消去しています。

## (2) 連結貸借対照表

## 連結貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位:千円)

借 方		貸 方	
【資産の部】		【負債の部】	
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産		(1) 地方公共団体	
①生活インフラ・国土保全	22,956,967	①普通会計地方債	9,661,795
②教育	5,226,582	②公営事業地方債	6,397,324
③福祉	382,162	地方公共団体計	16,059,119
④環境衛生	5,174,701	(2) 関係団体	
⑤産業振興	3,588,095	①一部事務組合・広域連合地方債	16,632
⑥消防	885,323	②地方三公社長期借入金	320,000
⑦総務	1,435,240	③第三セクター等長期借入金	665,519
⑧収益事業	0	関係団体計	1,002,151
⑨その他	0	(3) 長期未払金	211,405
有形固定資産合計	39,649,070	(4) 引当金	3,773,208
(2) 無形固定資産	3,275	(うち退職手当等引当金)	3,649,172
(3) 売却可能資産	715,714	(うちその他の引当金)	124,036
公共資産合計	40,368,059	(5) その他	0
2 投資等		固定負債合計	21,045,883
(1) 投資及び出資金	23,660	2 流動負債	
(2) 貸付金	671,653	(1) 翌年度償還予定額	
(3) 基金等	554,582	①地方公共団体	1,586,894
(4) 長期延滞債権	257,776	②関係団体	4,086
(5) その他	12,227	翌年度償還予定額計	1,590,980
(6) 回収不能見込額	△ 65,675	(2) 短期借入金(翌年度繰上充用金を含む)	435,739
投資等合計	1,454,223	(3) 未払金	117,726
3 流動資産		(4) 翌年度支払予定退職手当	130,978
(1) 資金	2,861,689	(5) 賞与引当金	160,908
(2) 未収金	185,572	(6) その他	89,935
(3) 販売用不動産	0	流動負債合計	2,526,266
(4) その他	820,237	負債合計	23,572,149
(5) 回収不能見込額	△ 33,658	【純資産の部】	
流動資産合計	3,833,840	1 公共資産等整備国県補助金等	7,511,590
4 繰延勘定	0	2 公共資産等整備一般財源等	23,992,050
資産合計	45,656,122	3 他団体及び民間出資分	204,000
		4 その他一般財源等	△ 9,951,267
		5 資産評価差額	327,600
		純資産合計	22,083,973
		負債及び純資産合計	45,656,122



(3) 連結行政コスト計算書

連結行政コスト計算書

〔自 平成24年4月1日  
至 平成25年3月31日〕

(単位:千円)

	総額	(構成比率)	生活インフラ・国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	議会	支払利息	回収不能見込計上額	その他行政コスト
1	2,692,721	12.7%	147,256	294,251	267,326	443,495	362,866	286,965	782,352	108,210			0
(1)人件費	201,403	0.9%	11,259	33,334	58,833	4,480	28,635	0	60,219	4,643			0
(2)退職手当等引当金繰入等	160,908	0.8%	7,218	21,923	19,799	27,352	15,384	1,028	59,693	8,511			0
(3)賞与引当金繰入額	3,055,032	14.4%	165,733	349,508	345,958	475,327	406,885	287,993	902,264	121,364			0
小計	1,580,565	7.5%	204,316	190,919	179,276	582,656	213,776	42,735	163,071	3,816			0
2	100,190	0.5%	46,255	12,487	381	25,235	9,196	783	5,853	0			
(1)物件費	1,599,948	7.5%	764,075	152,952	38,902	299,050	212,766	91,914	40,289	0			
(2)維持補修費	3,280,703	15.5%	1,014,646	356,358	218,559	908,941	435,738	135,432	209,213	3,816			0
(3)減価償却費	6,791,491	32.0%		33,947	6,690,452	67,092							
(1)社会保険給付	5,582,740	26.3%	134,469	24,185	4,403,197	431,741	91,753	410,145	86,478	772			0
(2)補助金等	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0			0
(3)他会計等への支出額	159,012	0.8%	10,722	0	4,392	19,984	115,324	0	8,590	0			0
(4)他団体への 公益資産整備補助金等	12,532,243	59.1%	145,191	58,132	11,088,041	518,817	207,077	410,145	95,088	772			0
小計	340,673	1.6%							340,673				
(1)支払利息	△ 2,607	0.0%											△ 2,607
(2)回収不能見込計上額	2,001,395	9.4%	26,624	0	58,196	10,695	1,945,060	0	0	0			△ 39,180
(3)その他行政コスト	2,339,461	11.0%	26,624	0	58,196	10,695	1,945,060	0	0	0			△ 39,180
小計	21,208,439		1,352,194	763,998	11,720,754	1,911,780	2,994,760	833,570	1,206,545	125,952			△ 39,180
経常行政コスト a			6.4%	3.6%	55.3%	9.0%	14.1%	3.9%	5.7%	0.6%	1.6%	0.0%	-0.2%

【経常収益】

	使用料・手数料	手数料	一般財源 振替額
1 使用料・手数料	105,552		0
2 分担金・負担金・寄附金	2,511,682		42,425
3 保険料	1,121,635		815,713
4 事業収益	3,483,157		
5 その他特定行政サービス収入	82,590		
経常収益 b	7,304,616		858,138
b/a	34.4%		0.0%
(差引)経常行政コスト a-b	13,903,823		△ 39,180
			△ 2,607
			340,673
			125,952
			1,179,050
			826,340
			702,989
			910,990
			76.5%
			2.3%
			0.0%
			△ 858,138

(4) 連結純資産変動計算書

連結純資産変動計算書

自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	他団体及び 民間出資分	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	23,185,127	7,761,410	24,751,554	204,000	△ 9,987,906	456,069
純経常行政コスト	△ 13,903,823				△ 13,903,823	
一般財源						
地方税	2,139,460				2,139,460	
地方交付税	3,890,521				3,890,521	
その他行政コスト充当財源	1,773,600				1,773,600	
補助金等受入	5,737,609	147,240			5,590,369	
臨時損益						
災害復旧事業費	△ 26,301				△ 26,301	
公共資産除売却損益	0				0	
投資損失	△ 2,837				△ 2,837	
損失補償等引当金繰入等	14,599				14,599	
科目振替						
公共資産整備への財源投入			503,789		△ 503,789	
公共資産処分による財源増		0	0		0	0
貸付金・出資金等への財源投入		0	142,206		△ 142,206	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 153,760		153,760	
減価償却による財源増		△ 397,060	△ 1,202,888		1,599,948	
地方債償還に伴う財源振替			1,160,369		△ 1,160,369	
出資の受入・新規設立	0			0		
資産評価替えによる変動額	△ 128,469					△ 128,469
無償受贈資産受入	0					0
その他	△ 595,513	0	△ 1,209,220		613,707	
期末純資産残高	22,083,973	7,511,590	23,992,050	204,000	△ 9,951,267	327,600

## (5) 連結資金収支計算書

## 連結資金収支計算書

〔 自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日 〕

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	3,246,846
物件費	1,580,564
社会保障給付	6,791,760
補助金等	5,582,746
支払利息	327,558
その他支出	2,536,738
支出合計	20,066,212
地方税	2,114,496
地方交付税	3,890,521
国県補助金等	5,509,814
使用料・手数料	105,101
分担金・負担金・寄附金	2,463,115
保険料	1,113,497
事業収入	3,806,242
諸収入	112,731
地方債発行額	794,000
長期借入金借入額	0
短期借入金増加額	85,000
基金取崩額	235,138
その他収入	2,111,943
収入合計	22,341,598
経常的収支額	2,275,386
2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	744,094
公共資産整備補助金等支出	411,165
地方独立行政法人公共資産整備支出	0
一部事務組合・広域連合公共資産整備支出	0
地方三公社公共資産整備支出	0
第三セクター等公共資産整備支出	5,776
支出合計	1,161,035
国県補助金等	240,305
地方債発行額	498,200
長期借入金借入額	0
基金取崩額	430
その他収入	143,313
収入合計	882,248
公共資産整備収支額	△ 278,787
3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	900
貸付金	114,932
基金積立額	26,497
定額運用基金への繰出支出	100
地方債償還額	1,826,675
長期借入金返済額	40,987
短期借入金減少額	40,761
収益事業純支出	0
その他支出	90
支出合計	2,050,942
国県補助金等	373
貸付金回収額	153,760
基金取崩額	0
地方債発行額	0
長期借入金借入額	0
公共資産等売却収入	80,177
収益事業純収入	0
その他収入	27,636
収入合計	261,946
投資・財務的収支額	△ 1,788,996
翌年度繰上充用金増減額	123,272
当年度資金増減額	330,875
期首資金残高	2,544,500
経費負担割合変更に伴う差額	△ 13,686
期末資金残高	2,861,689

#### 4. 財務書類を活用した財政分析

作成した財務書類を様々な視点から分析することで、本市の財政状況を確認することができます。ここでいう分析は、地方公会計の整備促進に関するワーキンググループが平成22年3月に公表した「地方公共団体における財務書類の活用と公表について」で提示されている指標をもとに行いました。

##### (1) 資産形成度 ～将来世代に残る資産はどれくらいあるのか～

###### ①資産及び市民一人当たり資産額

$$\text{市民一人当たり資産額} = \frac{\text{資産合計}}{\text{住民基本台帳人口}}$$

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
資産合計	30,140,410	45,656,122	31,387,282	47,724,856
住民基本台帳人口	23,495人		23,502人	
市民一人当たり資産額	1,283	1,943	1,336	2,031

###### ②有形固定資産の行政目的別割合

有形固定資産の行政目的別割合をみることにより、これまでどのような分野に資産を形成してきたかがわかります。

(単位：千円)

	平成24年度				平成23年度			
	普通会計		連結		普通会計		連結	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
生活インフラ・国土保全	15,809,251	60.3%	22,956,967	57.9%	16,086,001	59.2%	23,398,621	56.6%
教育	5,226,582	19.9%	5,226,582	13.2%	5,280,549	19.4%	5,280,549	12.8%
福祉	382,117	1.5%	382,162	1.0%	418,068	1.5%	418,157	1.0%
環境衛生	123,693	0.5%	5,174,701	13.1%	128,070	0.5%	5,541,655	13.4%
産業振興	2,499,732	9.5%	3,588,095	9.0%	2,695,767	9.9%	3,905,819	9.5%
消防	723,413	2.8%	885,323	2.2%	771,972	2.9%	918,487	2.2%
総務	1,435,235	5.5%	1,435,240	3.6%	1,792,977	6.6%	1,848,987	4.5%
有形固定資産 合計	26,200,023	100.0%	39,649,070	100.0%	27,173,404	100.0%	41,312,275	100.0%

###### ③歳入額対資産比率

当年度の歳入総額に対する資産の割合をみることにより、これまで形成された資産が歳入の何年分に相当するかがわかります。

$$\text{歳入額対資産比率} = \frac{\text{資産合計}}{\text{歳入総額}}$$

※歳入総額＝資金収支計算書各部の「収入合計」の総額と「期首歳計現金残高」の合計

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
歳入額対資産比率	2.9年	1.8年	2.9年	1.7年
歳入総額	10,313,046	26,030,292	10,762,217	28,175,732
資産合計	30,140,410	45,656,122	31,387,282	47,724,856

#### ④資産老朽化比率

有形固定資産のうち、償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合をみることにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかがわかります。

$$\text{資産老朽化比率} = \frac{\text{減価償却累計額}}{\text{(有形固定資産合計 - 土地 + 減価償却累計額)}}$$

(単位：千円)

	平成24年度	平成23年度
	普通会計	普通会計
資産老朽化比率	55.9%	54.0%
減価償却累計額	22,699,806	21,742,680
有形固定資産合計	26,200,023	27,173,404
土地	8,319,634	8,668,059

## (2) 世代間公平性 ～将来世代と現世代との負担の分担は適切か～

### ①純資産比率

資産に対する純資産の割合をみることにより、現世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資源をどの程度蓄積したかがわかります。

$$\text{純資産比率} = \frac{\text{純資産合計}}{\text{資産合計}}$$

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
純資産比率	53.3%	48.4%	53.1%	48.6%
純資産合計	16,067,673	22,083,973	16,660,002	23,185,127
資産合計	30,140,410	45,656,122	31,387,282	47,724,856

### ②社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）

社会資本等についての将来の償還等が必要な負債による形成割合をみることにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比重がわかります。

$$\text{社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）} = \frac{\text{（地方債残高 + 未払金）}}{\text{（公共資産 + 投資等）}}$$

\* 上記地方債残高からは、公共資産整備に充当されない地方債残高を除く。

\* 上記投資等からは、公共資産整備に充当されない基金残高を除く。

(単位：千円)

	平成24年度	平成23年度
	普通会計	普通会計
将来世代負担比率	20.6%	21.6%
地方債残高	9,661,795	10,022,442
翌年度償還予定地方債	1,332,447	1,366,927
物件の購入に係る長期未払金	210,431	243,544
物件の購入に係る未払金	8,841	8,829
公共資産整備に充当しない地方債残高	5,266,411	5,120,217
公共資産合計	26,915,737	27,997,776
投資等合計	1,934,151	2,156,866
公共資産整備に充当しない基金	20,000	20,000

(3) 持続可能性（健全性） ～財政に持続可能性があるか（どれくらい借金があるのか）～

①負債及び市民一人当たり負債額

$$\text{市民一人当たり負債額} = \frac{\text{負債合計}}{\text{住民基本台帳人口}}$$

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
負債合計	14,072,737	23,572,149	14,727,280	24,539,729
住民基本台帳人口	23,495人		23,502人	
市民一人当たり負債額	599	1,003	627	1,044

(4) 効率性 ～行政サービスは効率的に提供されているか～

①市民一人当たり行政コスト

$$\text{市民一人当たり行政コスト} = \frac{\text{純経常行政コスト}}{\text{住民基本台帳人口}}$$

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
純経常行政コスト	8,466,637	13,903,823	8,744,921	14,884,514
住民基本台帳人口	23,495人		23,502人	
市民一人当たり行政コスト	360	592	372	633

②市民一人当たり人件費・物件費等

「人にかかるコスト」と「物にかかるコスト」の合計額を市民一人当たりでみることにより、経常的な行政活動に係る効率性がわかります。

$$\text{市民一人当たり人件費・物件費等} = \frac{\text{人件費・物件費等}}{\text{住民基本台帳人口}}$$

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
人件費等	2,001,701	3,055,032	2,165,659	3,781,614
物件費等	1,622,483	3,280,703	1,729,170	3,487,290
住民基本台帳人口	23,495人		23,502人	
市民一人当たり人件費・物件費等	154	270	166	309

③行政コスト対公共資産比率

行政コストの公共資産に対する割合をみることにより、どれだけの資産でどれだけの行政サービスを提供しているかがわかります。

$$\text{行政コスト対公共資産比率} = \frac{\text{経常行政コスト}}{\text{公共資産合計}}$$

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
行政コスト対公共資産比率	32.4%	52.5%	32.1%	55.8%
経常行政コスト	8,727,611	21,208,439	8,994,512	23,519,313
公共資産合計	26,915,737	40,368,059	27,997,776	42,140,333

(5) 弾力性 ～資産形成を行う余裕はどのくらいあるか～

①行政コスト対税込等比率

税込などの一般財源等に対する純経常行政コストの割合をみることにより、資産形成の伴わない純経常行政コストにどれだけ使われたかがわかります。

$$\text{行政コスト対税込等比率} = \frac{\text{純経常行政コスト}}{\text{税込等}}$$

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
行政コスト対税込等比率	90.9%	90.3%	86.9%	96.6%
純経常行政コスト	8,466,637	13,903,823	8,744,921	14,884,514
純資産変動計算書：税込等	9,316,684	15,395,998	10,062,003	15,405,810
一般財源	6,183,799	7,803,581	7,520,189	9,136,799
補助金等受入(その他一般財源)	1,773,659	5,590,369	1,888,109	5,489,764
減価償却による財源増	957,126	1,599,948	241,805	367,347
臨時財政対策債の当年度発行額	402,100	402,100	411,900	411,900
減収補てん債(特例分)の当年度発行額	0	0	0	0

(6) 自律性 ～受益者負担の水準はどうなっているか～

①受益者負担の割合

$$\text{受益者負担比率} = \frac{\text{経常収益(行政サービスに係る受益者負担)}}{\text{経常行政コスト}}$$

(単位：千円)

	平成24年度		平成23年度	
	普通会計	連結	普通会計	連結
受益者負担比率	3.0%	34.4%	2.8%	36.7%
経常収益	260,974	7,304,616	249,591	8,634,799
経常行政コスト	8,727,611	21,208,439	8,994,512	23,519,313